

【学校・官民連携】官民連携による学校施設の複合化

【千葉県市川市】

背景・課題

- ・中学校校舎（一部）の老朽化が進み、校舎の建替えの必要性
- ・地域における保育所、高齢者福祉施設等の不足

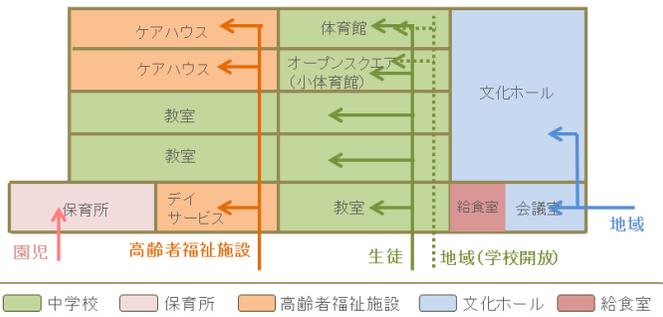
官民連携で学校を複合化、交流拠点化

- ・校舎の余裕容積を活用して、地域ニーズの高い保育所、ケアハウス等を含む複合施設化
- ・併せて文化ホール等を整備し、交流拠点化。
- ・PFIの導入による、効率的かつ効果的な公共施設等の整備・維持管理



市川市立第七中学校

- 中学校規模 / 27学級854名 (H28.5.1)
(うち特別支援学級 / 3学級21名)
- 複合施設 (床面積) /
中学校 (7,486㎡うち給食室474㎡)
文化ホール (3,077㎡)、保育園 (611㎡)
ケアハウス (2,468㎡)、デイサービスセンター (393㎡)
- 整備時期 / 平成16年
- 構造 / RC造 地上5階地下1階



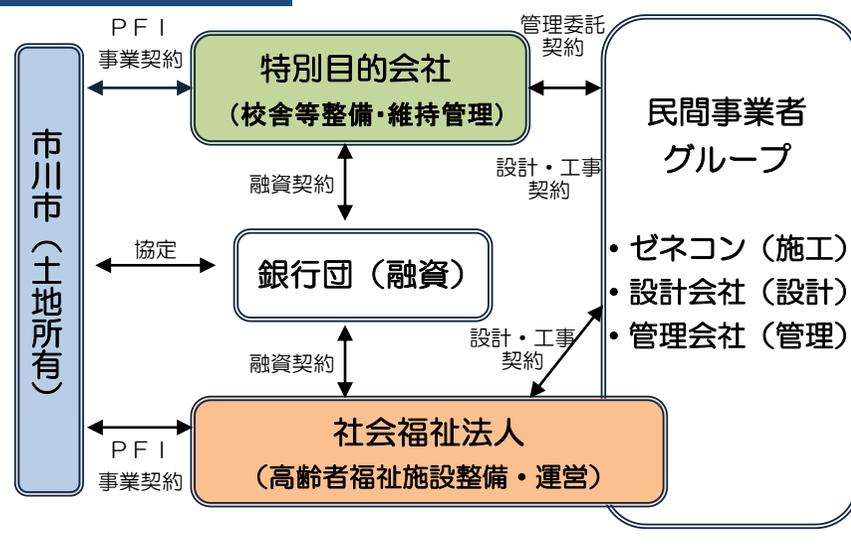
庁内体制 (当時)

■ 助役を委員長とし、12の関係部署で構成する「第七中学校校舎建設等事業検討委員会」を設置。

■ 構成員

- ・ 助役 (委員長)
- ・ 保健福祉局長
- ・ 教育次長
- ・ 企画部長
- ・ 福祉部長
- ・ 行徳支所長
- ・ 学校教育部長
- ・ 建設局長
- ・ 総務部長
- ・ 財務部長
- ・ こども部長
- ・ 教育総務部長
- ・ 消防局長

PFI事業体制



地域の拠点

- ・ 隣接の市役所支所、公立図書館と共に公共施設が集約され、利便性を向上
- ・ 学習や文化への関心・活動機会の向上



学校教育にも活用される文化ホール

相互利用・交流活動

- ・ 施設の一体化による近接性を有効に活用
- ・ 学校教育にも各施設を有効活用
- ・ 連携による防災力の向上
- ・ イベントへの相互参加による交流



複合施設全体の合同消防訓練